

科目名	看護人材開発特論			選択必修	選択
担当教員	小山真理子、本田 多美枝、柳井 圭子、山田聡子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	小山:17:00-18:00(火) 本田:12:10-13:10(金) 柳井:12:30-13:20(木) 山田:17:00-18:00(水)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的					
1. 看護人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について理解し、実践への応用について考察する					
2. 看護の質を高めるための継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論について考察する					
3. 看護・看護教育に関わる政策的課題を明確化し、政策立案を通じて質の高い看護を組織的に行うための方策について考察する					
■ 授業の概要					
看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力を修得する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	人材開発についての諸理論と看護教育への応用				小山
2	看護人材開発に関する日本の研究の動向				小山
3	看護人材開発に関する海外の研究の動向				小山
4	看護人材開発に関する国内外の研究のクリティーク				小山
5	看護人材開発プログラムの開発				小山
6	継続教育システム構築の基礎となる諸理論(キャリア開発、組織学習理論等)				本田
7	エキスパートナース育成に関連する諸理論(リフレクション、熟達化、省察的实践)				本田
8	継続教育システムの構築、エキスパートナースの育成に関する研究の動向				本田
9	継続教育システムの構築、エキスパートナース育成のプログラム開発				本田
10	臨地実習指導者の育成に関する現状と課題				山田
11	臨地実習指導者に関する研究の動向				山田
12	看護実践能力を育成する臨地実習指導者の能力の育成				山田
13	日本の医療制度改革の考察と看護をめぐる政策的課題				柳井
14	医療・保健における政策決定過程に関する研究から見出される課題検討				柳井
15	看護人材育成のための政策的課題の明確化と新たな法政策案の策定				柳井
■ 準備学習					
各教員から提示される文献リスト等を参考に、事前学習を行い、授業に参加する。院生がプレゼンテーションを行う際には、必読文献やプレゼンテーション資料を事前にメール等にて配布し、各自が主体的に参加できるように準備する。					
■ 教材・テキスト					
テキストは指定しない。最新の参考文献を授業開始時に紹介する。					
■ 参考書					
最新の文献を含め、適宜紹介する					
■ 成績評価の方法及び採点基準					
授業への参加度・プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)から総合的に評価する。					
①討論への参加状況やプレゼンテーション内容から評価する (小山・本田:各15点、山田・柳井:各10点)					
②課題に対して探究した内容が適切にレポートとして論述されているか					
授業は、内容ごとに①諸理論と実践への応用、②研究の動向、③プログラム開発(システム開発、政策提言)に向けた検討、という構成で進めていきます。各自がクリエイティブに考え、現状と課題を踏まえ、新たな観点から看護人材開発のあり方について探究していくことを期待しています。					

科目名	実践看護学特論			選択必修	選択
担当教員	植田喜久子、百田武司				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	植田：17:00-18:00(水) 百田：17:00-19:00(火)
開講時期	1. 2前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的					
1)脳卒中後遺症における諸理論や既存の研究成果を概観し、ベストプラクティスを提供するための理論と方法論について学ぶ。さらに、患者・家族のアウトカムを向上させるための理論や方法の開発について探求する。 2)がん看護領域で活用されている諸理論や研究成果を概観し、がん患者や家族の多面的な課題、診断・治療期、リハビリテーション期、終末期に対応した質の高い看護ケアについて探求する。					
■ 授業の概要					
脳卒中やがんなど生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討①				百田
2	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討②				百田
3	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討①				百田
4	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討②				百田
5	脳卒中後遺症患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求①				百田
6	脳卒中後遺所患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求②				百田
7	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討①				百田
8	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討②				百田
9	脳卒中患者の生活機能やQOLの向上に向けたに関する研究方法の探求				百田
10	がん患者の体験や生活課題に関する文献検討				植田
11	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討①				植田
12	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討②				植田
13	がん患者や家族における倫理的課題に関する文献検討				植田
14	がん患者や家族に対する援助に有用な理論や概念の文献検討				植田
15	がん患者や家族における援助の体系化に関する検討				植田
■ 準備学習					
授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト					
特になし					
■ 参考書					
各授業の中で適宜紹介する					
■ 成績評価の方法及び採点基準					
①授業への参加度と貢献度(10%)②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容(60%) ③レポートの作成(30%)					
■ 教員からのメッセージ					
文献検討を深めることで、学生自身の研究課題や研究の方法論を探究していきます。					

科目名	療養生活看護学特論			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、石崎智子、中野実代子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 石崎 火 17～19時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1)健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探求する。 2)健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する諸理論や研究成果を概観し、健康の捉え方を活用した看護実践について探求する。 3)健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探求する。					
■ 授業の概要 健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1～2	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する研究のクリティーク				河口
3～4	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する概念/理論の探究・分析				河口
5～6	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する課題の明確化				河口
7	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究のクリティーク				中野
8～9	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究における概念/理論の探究・分析及び課題の明確化				中野
10～11	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する研究のクリティーク				石崎
12～13	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する概念の探究・分析				石崎
14～15	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関するテレビ会議システムを活用したメディア教材の視聴と討議による課題の明確化				石崎
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(討議・発表等:50%、レポート50%)で総合的に評価する。 ①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	生涯発達看護学特論			選択必修	選択
担当教員	大西文子、安藤広子、野口眞弓、西片久美子				
分野	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	安藤:(水)15時～16時 野口:(月)17時～18時 大西:(月)17時～18時 西片:(月)17時～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1. 先端生殖医療や遺伝医療における患者とその家族への看護支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 2. 子育ての中核にある、出生直後からの母子を取り巻く母乳育児のアセスメントの実際と、母乳のケアを通じた乳児の健全な発育を支援する、地域の助産師・看護師の役割と実践について、理解できる。 3. 小児期のてんかんやネフローゼ等の子どもとその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 4. 認知症とともに生きる高齢者および慢性疾患とともに生活する成人とその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。					
■ 授業の概要 生涯発達理論を基盤とし、胎児期から老年期までの患者とその家族を対象に、それぞれの時期に生じやすい健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見を交えて教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	先端生殖医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。				安藤
2	遺伝医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。				安藤
3	出産体験に影響をする要因および出産体験が及ぼす影響について検討し、出産時の援助方法について討議する。				野口
4	母乳育児を可能にするための援助方法について検討する。				野口
5	育児期のソーシャルサポートの効果について検討し、ソーシャルサポートのあり方について討議する。				野口
6	妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援 日本版「ネウボラ」構想を実現するための課題や方略について探求する。				野口
7	小児期にてんかんをもつ子どもとその家族を理解するための理論、概念、モデルについて、探究する。				大西
8	小児期のてんかんの子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。				大西
9	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族を理解するための理論・概念・モデルについて、探究する。				大西
10	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。				大西
11	糖尿病患者とその家族を理解するための理論、概念、モデルについて探求する。				西片
12	文献のクリティークを通してエビデンスに基づく糖尿病患者に対する援助方法を探求する。				西片
13	高齢者および認知症高齢者理解のための理論的基盤について探求する。				西片
14	エビデンスに基づく認知症高齢者に対する援助方法を探求する。				西片
15	高齢者の看取りをとらえる概念枠組みと援助方法について探求する。				西片
■ 準備学習 事前学習課題を提示いたしますので、科目を選択される学生さんは、授業開始の2週間前までにはご連絡をお願いいたします。					
■ 教材・テキスト 適宜紹介する					
■ 参考書 適宜紹介する					
■ 成績評価の方法及び採点基準 各担当教員からの課題(50%)に加えて、プレゼンテーション評価(20%)やディスカッションへの参加状況(20%)、参加度(10%)を合わせて評価とする。 配点は、大西担当分27点、安藤担当分13点、野口担当分27点、西片担当分33点の合計100点である。					
■ 教員からのメッセージ ライフサイクル全体を俯瞰し、看護の対象となる人の生涯発達上の課題を明確にしたうえで、その人なりの健康を維持・増進できるような方略をともに探求していきたいと考えています。主体的な学習を期待します。					

科目名	広域連携看護学特論			選択必修	選択
担当教員	眞崎直子、高橋清美、鈴木聖子、小林裕美、姫野稔子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	適宜。事前にご連絡ください 高橋：メール連絡の上、相談 小林：12:30～13:20(金) 姫野：17:00～18:00(金) 眞崎：10:00～12:00(金)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		

■ 授業の目的

1)地域におけるメンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケアを概観し、多職種の連携・調整の分析および課題の明確化のための理論や方法について検討する。
2)メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、重要と考えられる主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。
3)地域で在宅療養する終末期の人々とその家族に対する支援と広域・多職種連携のあり方に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。
4)在宅高齢者の療養生活および介護予防に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。
5)地域で生活する認知症の人とその家族への支援・多職種連携に関する研究のクリティーク及び課題について検討する。

■ 授業の概要

人々が地域・在宅において、心身の健康と質の高い生活を維持できるよう、状況に即した柔軟な看護ケアを継続的・シームレスに提供するための治療的環境整備の方法、地域社会連携の改善・変革、多職種との連携・調整の在り方についての問題や研究課題を探究する。

回	授業内容及び方法	担当
1	メンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケア等に関する文献検討	眞崎
2	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における多職種連携の課題に関する文献検討	眞崎
3	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における社会連携の課題と改善に関する検討	眞崎
4	メンタルヘルスケア、難病患者等地域の継続的ケアに有用な理論や概念の検討	眞崎
5	メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する理論・方法論	高橋
6	メンタルヘルスケアに関する研究論文の動向	高橋
7	認知症の人のケアに関する文献検討	鈴木
8	地域で生活する認知症の人のケアの課題等に関する文献検討	鈴木
9	地域で生活する認知症の人のケアに関する理論の検討	鈴木
10	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する概念/理論の検討	小林
11	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する研究のクリティーク	小林
12	在宅療養する終末期の人々と家族に対する多職種連携に関する研究のクリティーク	小林
13	高齢者の療養生活や介護予防等に関する研究論文の文献検討	姫野
14	高齢者の療養生活や介護予防のケア介入等に関する文献検討	姫野
15	高齢者のケアに有用な理論・概念の検討	姫野

■ 準備学習

授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。

■ 教材・テキスト

各授業の中で適宜紹介する

■ 参考書

各授業の中で適宜紹介する

■ 成績評価の方法及び採点基準

①授業への参加度と貢献度(10%)②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容(40%)
③レポートの作成(50%)

■ 教員からのメッセージ

文献検討を深めることで、自己の研究課題や研究の方法論を多角的に探究していきます。
メンタルヘルスケアに対する問題意識や、自己の取り組みたい課題を考えて参加すること(高橋)
在宅療養する終末期の支援について、ともに検討できれば思う(小林)
主体的なとりくみを期待します(姫野)
メンタルヘルス、難病患者支援等地域課題解決に向け考えて参加することを期待します。(眞崎)

科目名	災害救護特論			選択必修	選択
担当教員	中信利恵子、小原真理子、山勢 善江				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	中信:10:00-12:00(水) 小原:授業時間前後30分 山勢:17:00-18:00(月)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的					
国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。					
■ 授業の概要					
1)災害看護領域における現象や看護実践の分析、活用されている諸理論や先行研究の研究成果を概観し、災害サイクルの各期の質の高い看護ケアを行うための看護の課題を探究する。また、災害が被災者や救援者に及ぼす影響、看護実践に活用できる理論や方法論について教授する。 2)官・民・学が一体となり取り組む地域防災を基盤に、要配慮者の震災関連死を防ぐ対応、そして法・制度について探究し、看護の役割を検討する。災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する看護の課題について探究する。 3)災害サイクルの急性期のケアに関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	災害や災害看護領域における現象や看護実践に関する文献検討				中信
2	災害看護において活用されている諸概念や理論に関する文献検討				中信
3	災害が被災者や救援者に及ぼす影響に関する文献検討				中信
4	災害や災害医療・災害看護における倫理的課題に関する文献検討				中信
5	被災者に対する看護実践に必要な看護の方法論の探求				中信
6	災害看護を行う看護者への支援方法の探求(1)				中信
7	災害看護を行う看護者への支援方法の探求(2)				中信
8	官、民、学が一体となり展開する地域防災の意義や方法論の探究				小原
9	震災関連死の現状分析と災害時要配慮者を取り巻く法・制度に関する文献検討				小原
10	災害時要配慮者、避難行動要支援者の健康と避難生活支援方法の探究				小原
11	災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する文献検討と現状				小原
12	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析(1)				山勢
13	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析(2)				山勢
14	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用(1)				山勢
15	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用(2)				山勢
■ 準備学習					
次回の授業内容や方法について、適切な文献を活用して事前に学習し、専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト					
授業内容に関するPPT資料やDVDを提示すると共に、適宜、ミニシミュレーションを取り入れ、参加型授業を展開する。(小原) 適宜紹介する。					
■ 参考書					
授業の中で適宜紹介する(中信) 授業の中で紹介する(小原) Rocert Power, Elaone Daily, et al.:International Disaster Nursing. Cambridge University Press. 2010(山勢)					
■ 成績評価の方法及び採点基準					
次の①～③で総合的に評価を行う。 ①授業への参加姿勢と貢献度(10%):自発的な質問、発言などをして積極的に授業に参加したか ②文献検討に基づいたプレゼンテーションの内容(40%):文献検討を行い根拠に基づいた資料を作成し、自己の意見を明確にしてプレゼンテーションが行えているか ③レポートの作成(50%):レポートが課題に対して適切な内容でまとめられているか					
■ 教員からのメッセージ					
文献検討とディスカッションを深めていく中で、博士論文の研究課題や研究方法論を探究していきます。(中信) 地域に暮らす災害時要配慮者の平時における健康・生活上の課題を理解することが、災害時の対応に繋がります。地域に根差した災害看護のあり方を探究していきます。(小原) 災害急性期は、個人および集団の心身に危機をおよぼします。この時期特有の看護を探究していきます。(山勢)					

科目名	健康科学特論			選択必修	選択
担当教員	島井哲志 佐藤満				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	島井 月17時-18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1. 集団を対象とした健康増進のアプローチを理解する 2. 集団を対象とした多様なアセスメント法と介入法を理解する 3. 多職種による介入とそのマネジメントを理解する					
■ 授業の概要 地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考案し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。					
回	授業内容及び方法				担当
1	総論：ウェルビーイングの多面的評価				島井
2	健康増進とウェルビーイングを取り巻く諸要因				島井
3	健康科学の方法論①				島井
4	健康科学の方法論②				島井
5	地域の課題から地域政策の立案へ				島井
6	保健指導の課題と今後①				島井
7	保健指導の課題と今後②				島井
8	ワーク・ライフ・バランスと職場のメンタルヘルス				島井
9	国際社会及び我が国での健康増進への取り組み				佐藤
10	身体計測学とその理論				佐藤
11	身体機能測定の意義とその方法				佐藤
12	健康運動プログラムの作成①ーメタボリック・シンドロームへの対応				佐藤
13	健康運動プログラムの作成②ーロコモティブ・シンドロームへの対応				佐藤
14	生活習慣病予防のための効果的な身体運動				佐藤
15	転倒・介護・認知症予防のための科学的な身体運動				佐藤
■ 準備学習 次回の授業範囲・課題などについて、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。					
■ 教材・テキスト 特に指定しない。関係書籍・論文等を広く活用する。					
■ 参考書 適宜紹介します。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業へ積極的参加・討論(30%)、プレゼンテーション(35%)・レポート(35%)により、総合的に評価する。					
■ 教員からのメッセージ 健康の保持・増進には身体運動が欠かせません。医療従事者として、その正しい知識を身に付け多くの人々の健康の保持・増進に貢献できるようにしましょう！					